

本資料は、米国アッヴィ社が2023年10月27日(米国時間)に発表したプレスリリースを一部、日本語に翻訳し、2023年11月2日(日本時間)に、皆さまのご参考として供するものです。本資料の正式言語は英語であり、その内容および解釈については英語が優先します。本資料(英文)については、www.abbvie.comをご覧ください。なお本文中には日本未承認薬、未承認適応症に関する情報が含まれています。

PRESS RELEASE

2023年11月2日

アッヴィ、2023年第3四半期の業績を発表

- 第3四半期の希薄化後1株当たり利益(EPS)はGAAPベースで、54.8%減の1.00ドルでした。調整後希薄化後EPSは19.4%減の2.95ドルでした。これらには、取得した仕掛研究開発費およびマイルストーン支払に関連した1株当たり0.04ドルのマイナスの影響が含まれます。
- 第3四半期の売上高は、報告ベースで6.0%減、営業ベースで5.8%減の139億2,700万ドルでした。
- イミューロジ(免疫)領域の第3四半期の売上高は、11.3%減の67億8,300万ドルでした。ヒュミラ®の売上高は、35億4,700万ドルでした。スキリージ®の売上高は、21億2,600万ドルでした。リンヴォック®の売上高は、11億1,000万ドルでした。
- オンコロジー(がん)領域の第3四半期の売上高は、報告ベースで8.4%減、営業ベースで8.6%減の15億1,200万ドルでした。イムブルビカ®(日本ではヤンセンファーマ株式会社による承認・販売)の売上高は、9億800万ドルでした。ベネクレクスタ®の売上高は、5億9,000万ドルでした。
- ニューロサイエンス(精神・神経疾患)領域の第3四半期の売上高は、報告ベースで22.1%増、営業ベースで22.0%増の20億4,300万ドルでした。ボトックス・セラピューティック(日本ではグラクソ・スミスクライン株式会社による承認承継・販売)の売上高は、7億4,800万ドルでした。Vraylar(日本では未承認・未発売)の売上高は、7億5,100万ドルでした。UbrelyvyおよびQulipta(日本では未承認・未発売)の売上高は合わせて、3億6,500万ドルでした。
- エステティクス領域の第3四半期の売上高は、報告ベースで4.7%減、営業ベースで4.0%減の12億3,900万ドルでした。ボトックス・コスメティックの売上高は、6億2,000万ドルでした。ジュビダームの売上高は、3億2,100万ドルでした。
- 2023年度における調整後希薄化後EPSのガイダンスを、10.86ドル~11.06ドルから11.19ドル~11.23ドルへ引き上げました。これには、2023年第3四半期に発生した仕掛研究開発費およびマイルストーン支払に関連した1株あたり0.27ドルのマイナスの影響が含まれます。
- 2024年度における調整後希薄化後EPSのガイダンスを、10.70ドルから11.00ドルへ引き上げます。これには、仕掛研究開発費およびマイルストーン支払に関連した影響は含まれません。
- 2024年2月の配当より、4.7%の増配を実施することを発表します。

米国イリノイ州ノースシカゴ、2023年10月27日—アッヴィ(NYSE: ABBV)は、2023年第3四半期(2023年9月30日終了)の業績を発表しました。

アッヴィの会長兼CEOのリチャード・A・ゴンザレスは、次のように述べています。「ヒュミラ以外の成長基盤となる製品が二桁成長となり、第3四半期も好業績を上げることができました。ビジネス



が好調に推移していることから、2023年度の通期のガイダンスとEPSの見通しの下限を再び引き上げます。また、四半期配当も増額しており、当社の長期的な見通しへの自信を示しています」

2023年第3四半期の業績

- 売上高は、報告ベースで6.0%減、営業ベースで5.8%減の139億2,700万ドルでした。
- 免疫ロジック(免疫)領域の売上高は、11.3%減の67億8,300万ドルでした。
 - ヒュミラ®の売上高は、36.2%減の35億4,700万ドルでした。米国での売上高は、39.1%減の30億2,000万ドルで、米国外では報告ベースで12.6%減、営業ベースで12.2%減の5億2,700万ドルでした。
 - スキリージ®の売上高は、報告ベースで52.1%増、営業ベースで51.9%増の21億2,600万ドルでした。
 - リンヴォック®の売上高は、報告ベースで59.8%増、営業ベースで59.6%増の11億1,000万ドルでした。
- オンコロジー(がん)領域の売上高は、報告ベースで8.4%減、営業ベースで8.6%減の15億1,200万ドルでした。
 - イムブルピカ®(日本ではヤンセンファーマ株式会社による承認・販売)の売上高は20.0%減の9億800万ドルで、その内訳は、米国内が6億7,800万ドル、米国外が2億3,000万ドルでした。
 - ベネクレクスタ®の売上高は、報告ベースで14.6%増、営業ベースで14.0%増の5億9,000万ドルでした。
- ニューロサイエンス(精神・神経疾患)領域の売上高は、報告ベースで22.1%増、営業ベースで22.0%増の20億4,300万ドルでした。
 - ボトックス・セラピューティック(日本ではグラクソ・スミスクライン株式会社による承認承継・販売)の売上高は、報告ベースで7.1%増、営業ベースで7.4%増の7億4,800万ドルでした。
 - Vraylar(日本で未承認・未発売)の売上高は、35.4%増の7億5,100万ドルでした。
 - Ubrelvy(日本で未承認・未発売)の売上高は、45.6%増の2億3,300万ドルでした。
 - Qulipta(日本で未承認・未発売)の売上高は、1億3,200万ドルでした。
- エステティックス領域の売上高は、報告ベースで4.7%減、営業ベースで4.0%減の12億3,900万ドルでした。
 - ボトックス・コスメティックの売上高は、報告ベースで2.7%減、営業ベースで1.7%減の、6億2,000万ドルでした。
 - ジュビダームの売上高は、報告ベースで8.6%減、営業ベースで7.9%減の3億2,100万ドルでした。
- GAAPベースで、売上総利益率は53.4%でした。調整後売上総利益率は83.5%でした。
- GAAPベースで、売上高に占める販売費および一般管理費の割合は、24.2%でした。調整後の売上高に占める販売費および一般管理費の割合は23.9%でした。
- GAAPベースおよび調整後の、売上高に占める研究開発費の割合は、パイプラインへの投資を反映し、12.4%でした。
- 取得した仕掛研究開発費およびマイルストーン支払の売上高に占める割合は0.5%でした。
- GAAPベースで、営業利益率は16.4%でした。調整後営業利益率は46.7%でした。
- 純支払利息は3億9,800万ドルでした。



- GAAP ベースで、税率は 8.8%でした。調整後の税率は、15.7%でした。
- 希薄化後 EPS は、GAAP ベースで 1.00ドルでした。特定項目を除く調整後希薄化後 EPS は、2.95ドルでした。これらには、取得した仕掛研究開発費およびマイルストーン支払に関連した 1 株当たり 0.04ドルのマイナスの影響が含まれます。

注意：「営業ベース(Operational)」の対比は、恒常為替レートで提示し、前年の為替レートにより現地通貨売上高の比較を実施しています。

詳細な情報はこちらをご覧ください(英文オリジナル)。

https://news.abbvie.com/news/press-releases/abbvie-reports-third-quarter-2023-financial-results.htm?_ga=2.1760951.741906021.1698614642-1009709964.1687821791

アッヴィについて

アッヴィのミッションは現在の深刻な健康課題を解決する革新的な医薬品の創製とソリューションの提供、そして未来に向けて医療上の困難な課題に挑むことです。一人ひとりの人生を豊かなものにするため次の主要領域に取り組んでいます。免疫疾患、がん、精神・神経疾患、アイケア、さらに美容医療関連のアラガン・エステティクスポートフォリオの製品・サービスです。アッヴィの詳細については、www.abbvie.com をご覧ください。X(旧 Twitter) [@abbvie](https://twitter.com/abbvie)、[Facebook](https://www.facebook.com/abbvie)、[LinkedIn](https://www.linkedin.com/company/abbvie) や [Instagram](https://www.instagram.com/abbvie) でも情報を公開しています。

日本においては主に、免疫疾患、肝疾患、精神・神経疾患、がん、アイケアの領域、さらに美容医療関連のアラガン・エステティクスのポートフォリオで、製品の開発と提供に取り組んでいます。アッヴィの詳細については、www.abbvie.co.jp をご覧ください。[Facebook](https://www.facebook.com/abbvie) や [YouTube](https://www.youtube.com/abbvie) でも情報を公開しています。

Forward-Looking Statements

Some statements in this news release are, or may be considered, forward-looking statements for purposes of the Private Securities Litigation Reform Act of 1995. The words "believe," "expect," "anticipate," "project" and similar expressions and uses of future or conditional verbs, generally identify forward-looking statements. AbbVie cautions that these forward-looking statements are subject to risks and uncertainties that may cause actual results to differ materially from those expressed or implied in the forward-looking statements. Such risks and uncertainties include, but are not limited to challenges to intellectual property, competition from other products, difficulties inherent in the research and development process, adverse litigation or government action, and changes to laws and regulations applicable to our industry. Additional information about the economic, competitive, governmental, technological and other factors that may affect AbbVie's operations is set forth in Item 1A, "Risk Factors," of AbbVie's 2022 Annual Report on Form 10-K, which has been filed with the Securities and Exchange Commission, as updated by its Quarterly Reports on Form 10-Q and in other documents that AbbVie subsequently files with the Securities and Exchange Commission that update, supplement or supersede such information. AbbVie undertakes no obligation, and specifically declines, to release publicly any revisions to forward-looking statements as a result of subsequent events or developments, except as required by law.